

三溪だより

～心かがやき ともにのびる 三溪っ子～
めざせ あいさついっぱい えがおいっぱい 楽しい三溪小学校



三溪小学校キャラクター
サブローイックさん

発行：令和6年1月23日

夢や希望をもつことの大切さを実感

校長 宮武 紀子

3学期の始業式の冒頭では、元日に発生した「能登半島地震」を受け、被災された方々への追悼とお見舞いの言葉を述べさせていただきました。自然の驚異を実感させられるとともに、これまでのような震度5を想定した訓練の甘さを痛感しました。「外に出ることによる2次被害を想定すると、耐震補強をした校舎内の方が安全」「堤防決壊の際には2階以上に上がれば大丈夫」といった、これまでの考え方は通用しないということを、目の前に映し出される映像から、まざまざと思い知らされました。堤防が決壊するほどの大地震ならば、校舎の破損に加えて火災の危険性もあり、外に避難せざるを得ません。しかし、運動場には逃げられない…となると、校舎から北方向のどこに逃げればよいのか、途中の道路の状況や家屋の破壊状況を鑑みると、どこを通るのが最善か、子どもたちがパニックにならないために、教員の連携に加えて子ども同士の連携をどう図るべきか、などと課題は尽きません。

現在、三谷地区コミュニティ協議会の防災部長様を中心とした方々にご協力をいただき、子どもたちが学校を離れている時間、つまり登下校中の被災時の避難場所や避難経路を策定する作業を進めているところです。防災部の皆様との連携を今後一層強化しつつ、南海トラフ大地震に備えていきたいと、年頭に当たり、心新たに誓った次第です。

始業式では、子どもたちの目がきらっと輝く、明るい話題もありました。保護者の皆様も既に報道等でご存知のことと思いますが、MLBのロサンジェルス・ドジャース(元 ロサンジェルス・エンジェルス)の大谷翔平選手から、グローブが本校にも寄贈されたことです。代表として、体育委員会委員長長の北山将大さんにグローブを手渡す贈呈式を行った後、6年1組から順に全てのクラスに回していき、一人一人が手に取って感触を実感できるようにしました。

このグローブには校長宛の大谷選手からのメッセージが添えられており、そこには「このグローブが、自分の次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます」と綴られていました。「次世代を担う子どもたちに夢や希望をもってたくましく生き抜いてほしい」という大谷選手の熱い思いが伝わってくるこのメッセージ。全校生に向けて、解説を加えながら読み上げましたが、それを受けて、グローブを手に取りながら、「ぼくは、陸上競技を頑張っているが、大谷選手のように、勇気や希望をもって、大きな大会で活躍できるようになりたい」と堂々と語ってくれた北山さんの晴れやかな表情がとても印象的でした。

私は野球について浅学ですが、大谷選手の曼陀羅チャートについては、始業式等でよく子どもたちに紹介しています。自分の明確な達成目標をもち、その実現のための具体的な方略を見出し、日々の自己分析を通して努力を重ねていく。このような思考を若干17歳の少年が実践できていたことに深い感動を覚えます。ものの見方や考え方とともに、大谷選手が大切にしている「思いやり」「礼儀」「感謝」といった心持ちについても学ぶことで、子どもたちの人間力を向上させていきたいと思っています。このグローブが子どもたちにとっての生き方の標となることを希う次第です。

〈2024.1.19執筆〉



～大谷選手からの寄贈グローブと香川オリーブガイナースからの寄贈ボール～
「今後は体育の学習やクラブ活動で使用していきます」